

『世界史 B』(世 B308)教科書 世界史のとびら[3]病気と伝染病(p.18~p.20)確認ワークシート【解答】

【1】 次の文章の空欄に適する語句を答え、下線部に関する問いに答えよ。

伝染病は、もともとは(1)であったものが、(2)や交易、文明の拡大などにより、人とものが動くことによって、他の地域へと伝播し、免疫をもたない人々に感染し、世界的流行をひきおこしてきた。

イタリアの湿地帯に生息していた(3)は、「ローマの道」を通じて各地に広まり、中央アジアから出発したペストは、(4)沿いに広まった。14世紀半ば、中央アジアの①サマルカンドに侵入したペストは、ダマスカス、カイロ、港湾都市ジェノヴァをへて、ヨーロッパ各地にも広まった。

②西欧世界を荒廃させたこのときのペストは(5)とよばれた。15世紀末の(6)の航海にはじまるスペインのアメリカ大陸進出は、アメリカに天然痘、はしか、ペストなどをもちこみ、インディオの人口激減の一因となっている。

原因がわからない疫病は、神が下す怒りや試練と解釈されたり、身近な他者であるユダヤ人のせいとされたりした。疫病、飢饉、(2)は相互に作用して、連鎖反応をもたらし、危機の時代をつくりだすことになる。ヨーロッパでは、17世紀にもペストが流行し、「危機の17世紀」をもたらした。

19世紀、世界はまたあらたな伝染病の大流行にみまわれた。インドの(1)であったコレラは、1817年に突然、アジア全域やアフリカに広まり、日本にも及んだ。このとき以来、コレラは6次にわたる大流行((7))をくりかえし、人々を恐怖におとし入れた。しかし、ついに(8)がコレラ菌を発見し、疫病が細菌によってひきおこされることが明らかになった。また、コレラの流行をきっかけに公衆衛生の概念が確立し、(9)の整備がはかれるようになった。そのためコレラは、「衛生の母」ともよばれている。

20世紀は、インフルエンザの時代である。第一次世界大戦末期に大流行した③「(10)風邪」は、全世界で2000万人から5000万人の犠牲者を出したと推定されている。

こうした病気の歴史をふりかえると、病気は、個人の心身の不調、異変としてあらわれるが、実は自然環境や人間社会のあり方と深くかかわっていることがわかる。今日においても、環境や社会の変化があらたな病気をつくりだしているのではないだろうか

問1 下線①について、a)サマルカンド、b)ジェノヴァが所在する現在の国名を答えよ。

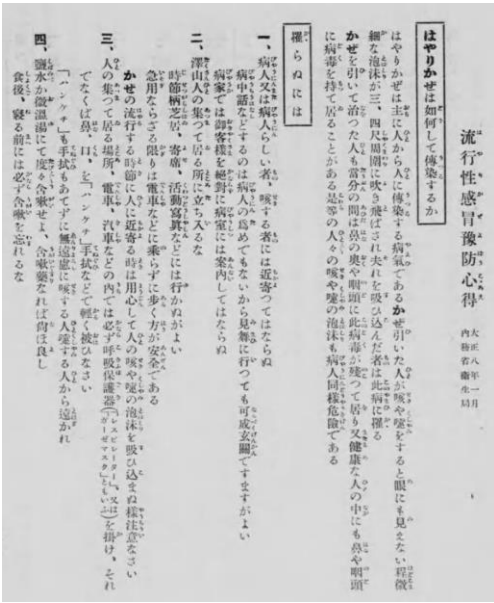
問2 下線②について、関連したことがらとして誤っているものを一つ選べ

- ア 天候不順により発生していた凶作や飢饉といった社会不安に追討ちをかけた。
- イ 1348年にはヨーロッパ全域に広まり、人口の約3分の2が失われたと推定されている。
- ウ 終息までに長い期間を要し、人口増加や経済成長を抑制する一因ともなった。
- エ 人々の死や死後の救済への恐れが強まり、生き方に対する考え方に影響を与えた。

1 風土病	2 戦争	3 マラリア	4 シルクロード
5 黒死病	6 コロンブス	7 パンデミック	8 コッホ
9 上下水道	10 スペイン		

問1	a) ウズベキスタン	b) イタリア	問2	イ
----	------------	---------	----	---

問3 次の史料は、下線③に関連して当時の日本政府が国民に向けて行った広報である。
 以下の内容を読み、現在の新型コロナウイルス禍との共通点や違いについて自由に記述せよ。



(一部抜粋)

はやりかぜは如何にして伝染するか

はやりかぜは主に人から人に伝染する病氣である。かぜ引いた人が咳やくしゃみ（くしゃみ）をすると眼にも見えない程微細な泡沫が三、四尺周囲に吹き飛ばされ夫れを吸ひ込んだ者は此病に罹る

罹らぬには

一、病人又は病人らしい者、咳する者には近寄つてはならぬ

二、沢山人の集つて居る所に立ち入るな

三、人の集つて居る場所、電車、汽車などの内では必ず呼吸保護器（「レスピレーター」、又は「ガーゼマスク」ともいふ）を掛け、それでなくば鼻、口、を「ハンケチ」手拭などで軽く被ひなさい

四、鹽水か微温湯にて度々含嗽（うがい）せよ、含嗽薬なれば尚ほ良し

問3